

扇の松の木の下で

花水をもっと「わたしたちのまち」に



第6号

2003年12月11日

■ 編集発行 ■
花水福祉コミュニティ
づくりグループ
「チーム土と風」

○花水たすけあいマップ 製作・発行を終えて

マップづくりチームのメンバー、編集・製本ボランティア、マップを手にした地域住民の方々が集まり、マップの反響や製作における裏話、地域住民のボランティア参加等について話し合いが行われました。司会は、私たちのメンバー林田直子さん。

司会 私たち花水福祉コミュニティづくりグループでは、ちょっと困ったときに身近なところで役に立つ「花水たすけあいマップ」をつくりました。今日はマップ作成にあたってボランティアとして参加してくださった方々や、実際にマップを使っていただいている方々の意見を聞かせていただければと思います。

N 結婚を機に、平塚に越してきました。もともとコンピュータ関係の仕事をやっていましたが、今は子育てに専念しています。今回は、地図の作製などITお助け隊として参加させていただきました。

A(息子) 浜岳中学に通っています。平塚に越してきて、平塚のことが何もわからませんでしたが、今回この活動に参加して、この地区のことがさらにわかって良かったと思います。

A(母) このマップは困った時に助けてもらえると感じました。また、<子育てで悩んだら>というページでは、私たちの知らない支援先などの情報がわかり、子供を育てていく上で役に立つと思って読ませていただきました。

H 重要なのは情報の共有化ですね。新しく越してきた人はもちろんのこと、お年寄りや、子供を抱えている方たちは、必要な情報を知らないですよね。このマップは今のような核家族化している社会では役立つのだろうと感じています。

O 先日市役所の方から、このたすけあいマップの評判がすごく良いと伺いました。また、全戸配布

したので、手にした方々から電話やお手紙をいただいております。独居老人の方が、病気になった時医者をどうしたらいいのか、すぐに対応できないのでこれがあると大変都合がいい、うまく活用したいとおっしゃっていました。

S 先日マッサージの待合室でごくいいと誉めている方がいました。私は、その話を聞くまで、マップをそこら辺に積んでおいたのですが、今は穴を開けて電話の脇においています。これから良く見て、自分に関係するところにサインペンで印をつけようと思っています。



きっかけは公民館だより - 地域住民の参加

司会 編集ボランティアや製本ボランティアに参加していただいたきっかけについてお話をいただけますか？

N きっかけは、公民館だよりでした。ちょうど子育てが一段落したタイミングだったので、何かできることがあればと思ったのです。以前、福祉関係のガイドブック作成のボランティアをしていましたが、今度は子育てをしているので地域のことを何かしてみたいと思っていたので参加しました。こういうマップがあったら自分が高齢者になった時に心強いだろうなと思いました。子育て情報は、もっと詳しい内容に広げていって、新たに一冊作れる機会があったら、その時はまた、お手伝いしたいなと思っています。

A(母) 私も公民館だよりを読んだのがきっかけです。子供にも、「自分の住んでいる地域のために、何かできることに参加して活動させてもらったら」

座談会のメンバー(敬称略)

司会、M、T: 花水福祉コミュニティ
づくりグループ・マップづくりメンバー

O: マップづくりメンバー、
花水社会福祉協議会会長

A: 製本ボランティア(親子で参加)

N: 編集ボランティア

S、H: 花水地区在住者

●花水たすけあいマップとは

花水福祉コミュニティグループ(グループの詳細は最終ページをご覧下さい)のマップチームによって作成された主に高齢者向けのマップ。地区内の福祉施設の見学、モニター調査、医療機関の個別訪問、試作等を経て、今年の夏に完成。9月には花水地区約6000世帯に全戸配布されました。福祉施設や公的施設、医療施設等のリストや地図のほか、介護サービスや介護保険に関する情報も掲載されています。ご希望の方は、花水町内福祉村までお問い合わせください。

という投げかけをしたところ、参加してくれました。こういう活動が小学生や中学生に受け継がれていくと、地域の中でもいろいろな活動が広がっていくのかなと感じています。

司会 中学生として、大人の人に混じりながら、製本作業に協力してくださった感想は？

A（息子） ま…疲れましたね（一同爆笑）おしゃべりとかしたのですが、人生何事も経験だと思ってやってみました。これからも、とにかく何か地域に貢献できることがあったら、やっていきたいと思います。

司会 Mさんは、今回のマップを編集するにあたって、いろいろな機関との交渉をやってくださいましたね。

M ちょうど2年前になります。このマップの製作の話が出てから。原稿を作るにあたって、ほとんどの施設や地域の方々は非常に協力的でした。しかしこのマップは、まだ100点満点ではないと思うので、これから時間をかけて、欠落した部分や不満のある部分を補って新しい発展につなげていこうと感じています。ほんとに大変だったのは、マップに掲載する諸団体との交渉と人集めでしたが、その大変さも、花水福祉コミュニティづくりグループの豊かな人材の協力を得て、乗り越えることができたと感じています。いろいろな課題がありますので、それを蓄えにして、今後もより良いものを作りたいと考えていますので、その時は皆さんにも仲間に入って協力していただければと思います。

花水地区へ全戸配布の運びへ

S 全部に配ったのですか？これって多少、高齢者向けの感じがしますけど…。

司会 はい、高齢者向けだけにならないように、急場でしたが、子育て支援の内容を足しました。市役所の児童福祉課などの情報にプラスして、不登校児を支援している機関の情報も集め、各機関の了解を取り、全戸配布になってもおかしくないようにしたのです。しかし、子育て支援が一番最後になっているし、内容も少ないので、若いお母さんたちのご家庭ではまったく役立っていないのではないかという不安もあるのですが。

N 高齢の家族と住んでいる方にとっては参考になると思います。若い世帯にとっても病院の内容は、すごく役立っていますね。

M 最近、越してきた方がいたので、自治会費を集める時に、家にあったマップを渡したら、喜んでくれました。引っ越ししてきた人にとってはけっこう役立つようですね。

O 自治会でも集金する時にこのマップのようなも

のを配布するといいのかもしれませんね。このマップを作成するに当たって、自治会も協力しましたということを説明すれば、黄門様の印籠の価値はある



製本作業では地域の方々がボランティアとして参加されましたかもしれませんね。

ボランティア参加へのモチベーション

司会 今回のようにボランティアを集める時には大変苦労をするわけですが、参加する人たちにとってはどのような内容だったらボランティアに参加しやすいと思いますか？

A（息子） スタンプカードで10個集まったら商店街でなんかもらえるとか。おまけがついているとみんなやると思う。

H ボランティアは、参加する人のモチベーション（参加してみようと言う気持ち）が必要だと思います。動こうとする気持ちのある人たちが動きやすいようにするということが必要なのではないでしょうか。参加するきっかけはたくさんあったほうが良いですね。方向性を一つに決めないで数多くやっていくことで、気がつく人が増えていけばいいのではないか？

M 今のお話ですと、製本だけでなくて編集の段階から参加の協力をお願いすれば良かったわけでしょうか？

H そうですね。たとえば、今、SEをやられている方が協力していたと言うお話を聞いてすごいなと感じました。そういう力を持っている方が何かやりたいなと思うならば、どこの段階からの参加もありうると思います。サラリーマンは土日市民なので、地域に根ざそうという気持ちが芽生えてこないと、なかなかこういう作業に参加できないと思います。家庭の中に、そういうことをしている人がいないとむずかしいですね。このマップは参加しやすい受け皿だと思います。サラリーマンが必要な情報って何？ということにもつながると思いますよ。

A 中学ではいろいろなボランティアのお誘いがあるようです。その中から自分にあったものを選んで、参加している生徒が多いようです。ボランティアに参加することについて保護者からいろいろな意見が出てきます。高校受験の内申に関係することになると懸念があるという意見もありますが、子供たちに地域のボランティア活動の声かけをして地域との結びつきを図りたいという意見や、ボランティア活動に参加することによって家庭内の話題も豊富になったという意見、中学生が参加できるボランティア活動をもっと増やしてほしいという意見もありました。自分達が活動することによって自分の気持ちの中にプラスが戻ってくるというように、活動を続けているお子さんは、精神的に成長されているようですね。今回の活動のようにボランティアのいろんな工程や詳しい時間帯が明らかになった一覧表があると参加しやすいですね。

A(息子) 回覧を回す時に、マップにどのような情報が必要かのアンケートをとってもいいんじゃないですか？

A(母) 子どもがいたいた感謝状を読ませていただいて、「自分達の地域は自分達の力で住みよくしていこう」という文面がありましたね。特定の方が大変な思いをして作るのではなく、できる人ができることをできる場所で協力していくのが理想的だなと感じました。

たすけあいマップの今後

司会 自分の町を自分達で住みよい町にしようとか、できる人ができる事をするということは、皆さんが思っていることだと思います。この花水福祉コミュニティづくりグループの目標もそこにあり、活動してきたわけですから、今のご意見はうれしいものです。今回、第一弾として非常に良いものができたと思いますが、まだまだ、網羅的で客観的ですね。たとえば、子ども達の目から見た町の評価をもとに、改善していくと良い点などを載せると、いいかもしれません。このマップを、今後更新していく必要性はあると思いますか？

N 今回、一度作ったデータもあるので、そこに付けすることは、それほど労力を使わなくともできていけるのではないか。これからもっと良

くなっていくと思います。若いお母さん達は、子供連れでも入れるお店や子どもを遊ばせやすい公園等の情報があれば便利ですが、お店の情報をのせることは難しいですか？

H 良いこと、便利なことを伝えるという視点でやれば、非常に有効な情報を共有化することができるんじゃないですか？ このマップを基にして、みんなでいろいろな視点から情報を出し合っていくというスタイルを続けていれば、継続性のあるものになるんじゃないありませんか？

T 地図の内容や病院の名前とかが変わることはよくあることですよね。こういうものは一回出したらそれでよいという性格のものではないと思います。福祉村や花水福祉コミュニティの応援で、何年か後に、改訂版を作ったらしいのではないかと思います。次回からは、いろいろな角度でいろいろな情報を密にして作ったらしいのではないかでしょうか？必要な情報について話し合いを重ねることは必要かもしれませんね。

O 地域の方々も、花水の全体像ななかなかつかめていないと思います。町は、変動が多いですから、改訂版がいつごろ出るのか期待している方もいると思いますし、その期待に応えなければいけませんね。

司会 今日、皆さんからいろいろなご意見を聞いて、もっといろいろな方々に幅広く参加していくたく必要のこと、そのためには、私たちの方から、皆さんの方に出向いていってご意見を伺う必要性のあることを感じました。どんなに時間がかかるても、みなさんと一緒に作っていく姿勢を大切に、次のマップを作っていく感じています。機会がありましたら、次回もぜひご協力ください。今日は、ありがとうございました。（於：花水公民館）

福祉村ミニデイサロンからのお誘い

毎週月曜・金曜の午後1時から3時半まで、袖ヶ浜の南部福祉会館・1階から楽しそうな話し声が聞こえてきます。3時のお茶タイムもとても楽しそう！利用者の方からも「いろいろな話ができる良い所ですよ。」との声が…あなたも気軽にミニデイサロンに立ち寄ってみませんか？

お問合せは花水福祉村まで。☎ 21-3401

Volunteers
Wanted !!

ボランティアに参加しよう！

下記の場所で詳しい情報を得ることができます。
時間等は電話でご確認ください。

平塚市社会福祉協議会ボランティアセンター

平塚市の福祉系ボランティア情報があります
☎ 33-2333（土・日休館）

ひらつか市民活動センター

日曜・夜間もボランティア情報を閲覧できます
☎ 21-7517（9:00～22:00）

花水地区町内福祉村

ふれあい援助員制度でボランティア参加／依頼
☎ 21-3401（月・金 13:00～16:00）

花水ボランティア

給食ボランティアやお手玉つくりなど
☎ 31-8162（中島さん）



花水福祉コミュニティづくり

**わっか
話花(WAKKA) サロンチーム**
地域のことを気軽に話せるお茶飲み会を第2火曜日と第4土曜日に花水公民館で開いています。誰でも参加できるのでご連絡下さい。
(佐々木節子 電話 34-3482)

地域福祉や地域づくりに興味のある30名が一昨年8月から始め、今年は5チームに分かれ活動を進めています。
メンバーも随時募集中です。
興味のある方はお気軽に電話で。

ボランティア育成会
湘南老人ホームへ月1回出前ボランティアに行っています。お話しや、折り紙をして喜ばれています。参加して下さる方を募集中です。
(鈴木憲子 電話 31-9619)

●マップづくりチーム
地域の方々のご感想をお待ちしています。
(林田直子 電話 24-9840)

●地域福祉を考える会
来年新しい課題に取り組むべく充電中です。何かアイデアがあったらお寄せください。
(宮坂由美子 電話 20-1737)

●チーム土と風
この情報誌を作成しています。広報紙の編集に協力してくださる方を募集中！
(平田実 電話 32-6870)

風の声

「グループホーム」に関して耳にされたことはあるでしょうか？グループホームとは専門のケアスタッフに24時間見守られながら、住み慣れた町の中で痴呆のお年寄りが5人～9人で共同生活をする場です。介護保険サービスの1つでもあります。

これまでの痴呆のお年寄りに対する、大型施設のケアの反省等から、もっと「その人らしく」穏やかな日々を送れるための個別的なケアができないか？という人々の中からグループホームは生まれてきました。グループホームで穏やかに暮らしているお年寄りと接すると、心がホッとあたたかくなります。それと同時に、このような環境がもっと地域の中で増え、地域として痴呆のお年寄りを支えていける仕組みがあったら、どんなに良いことか！といつも思います。

2003年9月現在、平塚市にも6ヶ所のグループホームがあります。ちょっと、自分の心の窓を開いて、グループホームを身近に感じる機会をぜひみなさんからも呼びかけて頂けるとうれしいなと思います。(中島)
※ 平塚市の情報は介護保険課の窓口で確認してください
平塚市介護保険課 電話 21-8790

交流しています

9月3日、沼津市第四地区社協の40名の方々が交流と地域福祉の学習の目的のために花水を訪れました。会場の南部福祉会館で最初に簡単な話し合いと花コミの説明がおこなわれてから、4つのグループに分かれて意見交換がおこなわれました。

意見交換は大変盛り上がり、予定の時間が過ぎても終わらぬほどでした。訪問の成果についてアンケートをおこなったところ沼津市の皆さんはこの交流会に大変満足されたということでした。私たちも、今回の交流を通じて、助け合いの福祉活動について同じ考え方が多いことを心強く感じ、大変良い勉強ができたと思いました。(高橋)

富士白苑在宅介護支援センターの相談員が変わりました 新しい相談員は遠藤佐世子さん
「花水の皆様、何でもご相談ください！」
電話 61-1842

編集後記

これまで名ばかりの編集長でしたが、今号の編集については、改めて「たすけあい」のありがたさを感じました。巻頭インタビューにも登場していただいたITお助け隊のNさんに、全面的に紙面作りをお願いしてしまいました。紙面もリフレッシュして、ありがたい限りです。(平田)

製本作業や座談会を通して、中高生のボランティア活動への意欲の高さを感じました。世代間交流の場にもなったようでした。(Rinda)

バックナンバーあります

- 第3号(2002年11月) 萩野俊夫さんインタビュー
第4号(2003年2月) 木谷正道さんインタビュー
第5号(2003年5月) 介護に困っている人に聞きました

編集・発行

花水福祉コミュニティづくりグループ「チーム土と風」
グループホームページ <http://y7.net/hanamizu/>
(活動スケジュール、活動記録などを報告しています)
e-mail hanacrosslove@anet.ne.jp
〒254-0821 平塚市黒部丘2-10 シティハイム花水104
tel/fax:0463-32-6870(編集担当:平田実あて)